

## もくれい (木冷ぜき)

### (1) 木冷ぜきができるまで

#### 人々の願い

今から300年ほど前、今の金山町大志・中川地区は、**大石村・宮崎村・板下村**とよばれていました。このあたりは、江戸幕府の領地(天領)で、農民は、とれた米の半分くらいを、年貢として幕府におさめなければなりませんでした。幕府の蔵に米を入れるので、この地方は御蔵入ともよばれています。

しかし、山にかこまれたこの地方は、米があまりとれませんでした。そこで、年貢におさめた米を買いもどして食べ物にしていました。そのため人々は、麦、あわ、ひえ、そばなどをつくりたり、わらびやせんまい、木の実などをとったりして米のたしにしていました。

このように、毎日の食べ物にもこまるような生活をしていたので、新しい田を開いて、少しでもたくさんの米をつくりたいというのが、人々の願いでした。

#### 近くに川があるのに

このあたりは、田にできる平らな土地がたくさんありました。「この土地が田んぼにできたらなあ。」人々は、苦しい生活の中で、ため息をついていました。そこを田にするためには、問題があったのです。それは、米づくりにとって一番たいせつな水がないことでした。

どうして水がなかったのでしょうか。そのわけを次の地図を見てかんがえましょう。



あわ



ひえ



そば